



はるひで
渡邊東英さん (中山中1年)
が快挙!
全国中学生選抜将棋大会で優勝

8月3日・4日の2日間、わたって天童市で行われた中学生将棋士の日本一を決める「第37回全国中学生選抜将棋選手権大会」で、中山中1年生の渡邊東英さんが、優勝の快挙を果しました。

王将 大会を終えて

渡邊さんは、決勝で千葉県の代表選手と対戦。互いに一歩も引かない熱戦でしたが、相手が王手を見逃す「王手放置」の反則があり、反則勝ちとなりました。

この快挙に、渡邊さんは「目標は一応優勝にしていたけれど、信じられない。周りも驚いていると思うが、自分が一番びっくりしている」と振り返り、「今大会は地元山形での開催だったので、頑張ろうと決めていました。弱気にならないこと、相手がどのように攻めてくるか見極め、冷静に戦うことを念頭に置いて対局に臨みました。いつも以上に緊張しましたが、ベスト4に入ってから、父から『よく頑張った。ここまでこれれば立派だ』と声をかけられ、やっとなりやすさが出てきて、自分のペースで指せるようになりました」と話してくれました。

的には勝ったけれど、勝因は自分の力ではなく相手のミスによるもの。あの時点では五分五分の勝負をしていたと思うので、相手のミスがなかったらどうなっていたか分からない。実力で勝てるようにもっと頑張らなければいけない」と冷静に戦いを分析し、気持ちを引き締めていました。

王将 町長を表敬訪問

大会翌日の8月5日、役場を訪れ佐藤町長に結果を報告しました。町長から普段の生活や練習方法について聞かれると、「学校から帰ると、まず宿題と次の日の準備をして、その後はずっと将棋をしています。練習は、週1回の将棋教室に通っているほか、普段は棋譜並べや自宅のパソコンでネット対局をしたり、将棋ソフトで指し手の研究をしています」と答えていました。

佐藤町長は、「渡邊さんの快挙は、町民にとって明るいニュースになった。将棋と学校の勉強との両立は大変だと思うが、好きなことだからこそ頑張れると思う。中山町初のプロ棋士を目指し、思う存分好きなことを極めて欲しい」と激励しました。

王将 新進棋士奨励会に合格

8月18日、日本将棋連盟のプロ棋士養成機関で、プロへの登竜門と言われる「新進棋士奨励会」の入会試験に挑戦しました。

全国中学生選抜将棋大会での優勝で、受験者同士で対局する一次試験は免除。続く難関の二次試験で、級位を持つ奨励会員との対局に勝利し、見事合格しました。

この結果に渡邊さんは、「プロへの第一の関門を突破できた。早くプロになれるよう頑張りたい」と意気込みを語ってくれました。今後、月2回上京し、将棋会館に通って腕を磨きます。

新進棋士奨励会への合格で、渡邊さんのプロ棋士への夢がますます現実味を帯びてきました。中山町からプロ棋士が誕生する日は遠くないかもしれません。

王将

渡邊東英さん (中山中1年・北小路)

両親からマグネット式の将棋セットを買ってもらったことがきっかけで、小学校3年生で将棋を覚え、その年に出場した子ども将棋大会で準優勝。将棋に興味を持つようになり、天童市の天童少年少女将棋教室に通うようになりました。

その後、小学6年生までに県小学生将棋名人戦3連覇など頭角を現し、今年、将棋の中学生日本一を決める全国中学生選抜将棋大会で優勝を果たしました。

将来の夢はプロ棋士。憧れの棋士は羽生善治さん。



8月5日、町長を表敬訪問。大会での優勝と、新進棋士奨励会への挑戦を報告しました。